

I 実践

生命尊重・命の大切さを考える人権教育

－ 道徳の授業の実践を通して －

1 主題名 「いじめ」について考える 3－(2) 生命尊重

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目3－(2)は「生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。」ことを主な内容にしている。だれしも一つの命をもって生まれる。何にもかえがたい命を尊重することは、道徳教育の基盤である。しかし、現代社会では、人を傷つけたり自殺したりなどの行為が日々、新聞等をにぎわしている。低学年からも命の大切さを考えさせ、生きているものすべての生命に対する尊重の精神をつくっていく必要がある。命の尊さに気付かせ、自分自身の命を大切にすることはもちろんのこと、他の命についても尊ぶ心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 指導内容にかかわる児童の実態 (男子 16名 女子 14名 計 30名)

学校生活において、みんなで仲良く、協力し合うことの大切さについては理解しているものの、自己中心的な行動をしてしまう児童も見られる。なかなか相手の立場になって物事を考えられず、自分の思うようにならないことに我慢ができずに暴言や暴力に出してしまうなどのトラブルになり、友達を傷つけてしまったり、あるいはお互いに傷つけてしまったりする事が見られる。

今回、「いじめ」について深く考え改善に向けるために、どんなことを「いじめ」と感じているか、アンケートをとった。(解決されている内容であるかは確認している。)

(調査 6月 4日)

○小学生になってからいじめられたと思うことがありますか。

・はい 16名

○それはどんなことですか。(複数回答)

・パンチ・キックされた。10名

・悪口を言われた。7名

・物を取られた。1名

・せきをかけられた。1名

・いすをけられた。1名

・にらんできた。1名

○小学生になってからいじめたことがありますか。

・はい 6名

○それはどんなことですか。

・パンチ・キックをしてしまった。4名

・悪口を言ってしまった。2名

アンケートの回答から、対象児童が違うことがあるにせよ、いじめられたとの思いは強く残るが、いじめた側はそのことをあまり心に残っていないことが感じられる。

(3) 中心となる資料について (資料名 松谷みよ子作 偕成社「わたしのいもうと」)

この資料は、松谷みよ子さんが、自分に届いた手紙をもとに、絵本を作ったものである。その内容は、手紙に書かれているとおりの実際の出来事である。いじめにより、妹が命を落としてしまう内容である。いじめはその人の生きる力を奪ってしまうもので、決して許されるべきものではないことを伝えたい。また、「妹」と「いじめた子」の立場に思いを重ねることで、考えを深めさせたい。この1時間の授業の中で、「いじめは、絶対にいけない」とはっきり認識してほしいと考える。しかし、その思いは、今回の授業で終わりではなく、これから先、いじめの場面に出くわしたときに、「わたしのいもうと」を思い出し、どう行動すべきか、考えることができるきっかけになるようにと考える。

3 本時のねらい

○ いじめは、決して許されるべきではないことを理解し合い、互いによりよく生きようとする心情を養う。

4 準備・資料

・資料のプリント ・絵本 ・ワークシート ・場面絵

5 本時の展開

学習活動と主な発問	予想される児童の反応	児童への指導と援助
-----------	------------	-----------

1 資料「わたしのいもうと」を読む。 2 資料を読んだ感想をワークシートに書く。 ○「わたしのいもうと」を読んで 思ったこと、わかったこと、気がついたこと、考えたことを書きましょう。 3 発表し、話し合う。 ○感想を発表しましょう。 4 資料の後半を予想する。 ◎その後どうなったかを考えて書きましょう。予想を一行で書きましょう。意見を黒板に書きましょう。 5 意見について話し合う。 6 後半の資料を読む。 7 読んだ後の感想を書く。 ○自分が妹だったら、いじめっ子だったら、と立場を考えながら感想を書きましょう。 8 発表する。 9 今日の授業で「いじめ」について思うことを書く。 ○今日の授業から「いじめ」について思うことを書きましょう。 10 発表しまとめとする。	・「くさいぶた」と言われてかわいそう。 ・きゅう食を受け取ってくれないなんてひどい。 ・えんそくで一人ぼっちで、だれかいっしょになってあげればいいのに。 ・ごはんも食べられなくなって、かわいそう。 ・やせてしまってかわいそう。 ・元気をとりもどして、学校へこられるようになる。 ・いえにとじこもったまま。 ・学校をずっと休んだ。 ・先生に言ってみんなに話してもらった。 ・大別すると3つに分かれる。 ア よくなる。 イ わるくなる。 ウ かわらない。 ・いじめた子が気がつけばよかったのに。 ・いじめっ子ははんせい文を書いておくれればよかった。 ・ほかの子が、あそびにさそってあげればよかった。 ・いじめでしんでしまうことがわかった。 ・いじめはいけなかった。 ・いじめられていたら、なかまになってあげよう。 ・わる口は言ってはだめ。	・黙読させることで、静かな雰囲気をつくりたい。 ・一人一人の黙読の後の教師の範読は、心に入っていくよう流れるように淡々と読む。 ・活動の確認と意欲を高めるため、書けた児童のワークシートを確認する。 ・書けた子には続けてさらに書かせる。 ・全員が意見をもてるようにさせる。 ・ワークシートに書いてあることから児童は安心して発表できると考える。 ・多くの児童が発表できるようにしたい。 ・意見が黒板に書けなかった児童も、近い予想に名札を貼らせたい。全員で参加させたい。 ・一人一人が予想をすることで後半の内容へと全員を引き込んでいきたい。 ・前半同様、静かに読ませたい。その後、教師が範読する。 ・予想をしなかった死、という内容を重く受け止め、感じたことを書かせたい。 ・「妹」「いじめた子」の立場に自分を当てはめて、思いを重ね、深めさせたい。 (評) いじめは、人の命を奪うこともあることを知り、決して許されるべきではないことを学んだか。 (発表・ワークシート) ・今後の人との関わりの中で、今日の授業で学んだことを思い出せるように助言し、授業を終えたい。
--	---	---

6 成果

「命の大切さ」についての内容は、保護者も関心が高いと思われた為、学校公開の学習参観日に本時の内容を保護者や地域の人に公開した。その後、絵本「わたしのいもうと」をぜひ読みたいという話や読み聞かせをしたいという声があり、この授業の実践を通して、命について見つめ直し関心を高めることが、少なからずできたものと感じられた。また、今後の生活の中でも友達との接し方について考え、さらには命の尊さにつながるようになっていくことを願いたい。

II 今後の課題

今後も各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して児童一人一人に、差別・偏見のない人間関係や自他の立場等について考える機会を多く設定しながら意識の高揚や実践力を養っていく必要がある。